2016 年度

活動報告及び決算報告書

JLMM

一般社団法人　日本カトリック信徒宣教者会

目次

1．2016 年度の動きと成果（概要）.....4

2．各国活動.....6

（1）カンボジア.....6

Ⅰ　プノンペン市ステンミエンチャイ地区ゴミ集積場周辺に暮らす家族のための生活向上支援.....6

Ⅱ　プルサート州コンポンルアン水上村　生活向上支援.....19

Ⅲ　シェムリアップ小教区支援.....25

（２）東ティモール.....30

Ⅰ　プライマリ・ヘルスケアの普及促進事業.....30

Ⅱ　健康に関する住民へのサービス及び知識・情報提供事業.....35

Ⅲ　プライマリ・ヘルスケアを目的としたコミュニティ事業.....37

Ⅳ　地域医療行政との連携・協力事業.....38

Ⅴ　人材の育成・研修事業.....39

3．調査・調整活動.....40

4．研修.....41

5．派遣.....41

6．派遣候補者の募集と選考.....41

7．団体連携・協力.....41

（1）東ティモール医療友の会（AFMET）の運営協力.....41

（2）カトリック東京ボランティアセンター（CTVC）の運営協力.....42

（3）カリタスジャパンの運営協力.....42

8．ゴスペル.....42

9．海外ボランティア制度.....43

10．広報.....43

（1）ミッション（ニュースレター）発行　他.....43

（2）広告掲載等.....44

（3）チラシ配布.....45

（4）新聞･雑誌記事掲載 45

11．報告会・説明会・講演 46

12．主催イベント 47

13．バザー・イベント等への参加・企画協力 48

14．ファンドレイジング 48

15．スタディツアー 48

16．会議 49

（1）総会 49

（2）理事会 49

（3）名称検討ワーキンググループ 50

17．理事・顧問司教 50

18．加盟団体等 51

2016 年度 日本カトリック信徒宣教者会 活動報告

1．2016 年度の動きと成果（概要）

派遣地における活動

カンボジアのプノンペン市では、子ども達のための識字、栄養教育、女性のための栄養・保健・住環境セミナー、収入創出プログラム「ハッピーアイス」などの活動を継続実施した。味の素ファンデーション「食と健康」国際協力支援プログラム「プノンペン市貧困地域におけるコミュニティヘルスワーカーの養成と家庭の栄養改善」の第2年次事業を実施した。地域における栄養状態の底上げを図るべく、コミュニティヘルスワーカーの養成に向けた地区ごとの栄養セミナーを実施した。

コンポンルアン水上村では保健衛生、栄養改善、識字教育、浄水プログラムなどを継続した。

シェムリアップでは、シェムリアップ教会が市内の聖ヨハネ教会を中心に、地域内の4つの教会、6つの子どもセンター、2つの農場を現地の人々や専門家の協力を得て運営しており、派遣者が運営面での支援を行った。派遣者の任期が7月下旬までであり、後任もいないためシェムリアップ派遣は一時中断することとなった。

東ティモールでは特定非営利活動法人東ティモール医療友の会（AFMET）に派遣され、プライマリ・ヘルスケアの普及促進事業を中心に保健プログラムを実施した。味の素ファンデーション「食と健康」国際協力支援プログラムの助成を受け、対象地域の母親に栄養失調児減少を目的とした「栄養と食に関する知識向上プログラム」を実施した。

スタディツアー（継続と新規学校企画）

昨年開始した上智福岡高等学校2年生向けのスタディツアーを今年度も7月に実施、さらに新規で清泉女子大学から依頼を受け、2月に「カンボジア・ボランティアスタディツアー」を実施した。高校生や大学生にとって大変学びの多いプログラムとなり、今後も毎年恒例の学校企画になることが期待される。また、8月にJLMM 夏のスタディツアー、長年 JLMM カンボジアの活動支援を継続されている NPO 法人「芝の会」のスタディツアーを3月に実施し、支援者の方々に現地での活動を視察していただく良い機会となった。

ミニ報告会とラチャナ販売（教会に向けた広報の拡充）

JLMM の活動広報の拡充を目指し、今年度は特にカトリック教会における「ミニ報告会とラチャナ販売」を企画・実施した。ミサ後に動画映像を使用した短い活動報告とハンディクラフトの販売を組み合わせて実施することにより、多くの方々に関心を持っていただくことができた。理事、OBOG、事務局スタッフが東京教区2、横浜教区2、大阪教区1の計5か所を回った。この企画を通してラチャナ販売のマーケットの拡大と継続とともに、JLMM の活動を多くの人に周知することができた。

団体名称の検討

懸案事項であった「日本カトリック信徒宣教者会」という名称について再検討することが第2回理事会で提案され、OBOG などによって組織する「JLMM 団体名称検討ワーキンググループ」が1月より定期的に開催され、団体名称についての検討を進めた。

派遣候補者募集と研修、派遣

2016年度は、派遣候補者がいなかったため、研修及び派遣式を行わなかった。

2017年度研修に向け、派遣候補者募集を行った。例年通り8月から10月まで募集を行い、3名の応募者があった。2016年11月23日選考試験を行い、2名が合格した。

カリタスジャパンとの連携（熊本地震被災地支援および災害時支援システム構築協力）

4月14日から相次いで発生した熊本震災に際し、カリタスジャパンから要請を受け、事務局の漆原と辻が5月に2回に分けて被災地での支援活動に協力した。主に被災地におけるボランティア活動拠点「カリタス福岡 熊本支援センター」の開設にあたった。また、今後起こりうる大災害発災時にカトリック教会が被災者支援システムを迅速に構築できるよう、カリタスジャパンから協力要請を受け、1月より支援マニュアル作成作業に参加した。

各国派遣状況及び会員数は以下のとおりである。

2017年3月31日現在の派遣国と派遣者
　　カンボジア…2名、東ティモール…1名
　　計　2ヶ国　3名
2017年3月31日現在の正会員数　10名
2017年3月31日現在の賛助会員数　2，503（個人・団体）
　内訳
　　個人…　1，209、教会…　331、修道会…　639、学校…　182、その他…　142

2．各国活動

(1) カンボジア

1992年4月より内戦後の復興に取り組むカンボジア人、帰還難民の支援をきっかけに信徒宣教者の派遣が開始された。バッタンバン州にて児童養護施設におけるソーシャルワーク支援、洋裁技術支援・ハンディクラフト製作による女性の自立支援、スヴァイリエン省にて試験農場、コンポンスプー省では幼稚園支援など、カンボジア現地 NGO を通してのコミュニティ開発支援を行ってきた。

1996年6月14日カンボジア政府に JLMM カンボジアとして国際NGO登録を行った。

1998年1月から、カリタス・カンボジアとの協働によりプノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区ごみ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援、2001年12月よりバッタンバン知牧区内プルサート省コンポンルアンの水上村における住民との関わりを開始した。

また、2007年6月より、シェムリアップ州クナ・トゥメイにおいてカトリック教会が地域の子ども達に向け行っている子どもセンターの識字教室などの活動支援を開始した。

さらに、2008年7月より、バンテイメエンチャイ州タオム村でカトリック教会が地域の子ども達に向け行っている子どもセンターの識字教室などの活動支援を開始。その後、教会の会計管理等の活動支援も開始。2002年度より浅野美幸（横浜教区）、2013年度に井手司（福岡教区）を派遣した。2016年8月に細川昭雄（大阪教区）は任期を終え帰国した。

プノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区ゴミ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援を浅野が担当し、トンレサップ湖上の村コンポンルアンの活動を井手が担当した。

Ⅰ プノンペン市ステンミエンチャイ地区ゴミ集積場周辺に暮らす家族のための生活向上支援

1．対象地域と地域概要

プノンペン市ステンミエンチャイ地区ルッセイ村

ルッセイ村には、ゴミ集積場でゴミの中からリサイクルが可能な有価物を拾い集め、リサイクル業者に売り、生計を立てている家族が多く住んでいる。住民の多くは、以前地方で農業を営んでいた人たちだが、グローバリゼーションの影響などにより、家族を養うための十分な食料や生活物資を購入するための現金を得ることが出来ずに都会に出てきた人たちである。

村では、生活環境不良のため栄養不良や皮膚疾患が多くみられる。また、高利貸しへの借金返済にも苦しんでいる。子どもは家族を助ける労働力とみなされ、親は子どもの教育にあまり熱心ではない。子ども達も家族を助けたい思いからゴミ集積場で働いている。子ども達は、小学校に入学できても、基礎的生活習慣や能力不足により落第や退学する子どもが多くいるのが現状である。

2009年7月にステンミエンチャイのゴミ集積場は、ゴミの収容範囲を超えたため閉鎖され、プノンペン市の全てのゴミはダンコー地区にできた新ゴミ集積場に集め捨てられている。住民たちは以前から住んでいるルッセイ村に留まり、そこから毎日ルモー（バイクで牽引する乗り合いの搬送車）で新ゴミ集積所へ通勤している。住民たちの移動がないため、JLMM ではステンミエンチャイ・ゴミ集積場の閉鎖後も、活動を継続している。

2016年度は、次のとおり事業を実施した。事業実施に関する活動資金の一部は、大阪大司教区「カンボジアの日」、ドイツ「Die Sternsinger」、NPO法人「芝の会」（創設者、故粕谷甲一神父）、味の素ファンデーション「食と健康」国際協力支援プログラムからの支援を受けた。

2. 活動

1）「子どもの家」活動

貧困や家庭の事情で小学校に通学できない子どもや落第、退学が多い対象地域での就学前の子ども達への幼児教育、衛生教育、識字教育を実施した。基礎的社会能力や知的能力を向上させる体験の場を月曜日から金曜日の午前中、能力別に分かれた3クラスで週5日8時半から11時まで運営した。

生徒数は常時70～90名。2016年度は21名の子ども達が小学校に入学した。

a)「大きな子どもの家」

対象年齢:クメール語子音の読み書き、1から10の数字が分かる6歳から12歳の児童20人。

衛生教育、クメール文字の読み書き、足し算や引き算、工作、ぬり絵、お絵かきなどを学ぶ。

b)「小さな子どもの家」

対象年齢:クメール語子音の読み書きができない児童30人。

衛生教育、識字教育、工作、塗り絵、お絵かき、歌などを学ぶ

c)「小さな小さな子どもの家」

対象年齢:3歳から5歳の幼児25人。

パズルやお絵かきなど遊びが中心。

「小さな小さな子どもの家」

「大きな子どもの家」

① スタッフと先生やアシスタントとの定期ミーティング

「子どもの家」が小学校入学への架け橋として、充実した教育を実施できるよう、スタッフと先生やアシスタントと毎月末に定期的なミーティングを行った。

成果

親が仕事で送り迎えができない地域への送迎システムを構築することができたため、子どもたちが継続して学びにくることができた。

課題

限られた時間なので予定や課題の周知が中心となった。子ども達の情操を豊かにしていくための教材作りと指導力の向上を目指していきたい。

② 家庭訪問

教育の大切さを保護者に理解してもらうため、7歳以上で小学校入学していない子どもの家庭を訪問し、小学校進学の重要性を伝えた。また、小学校入学の手続きの方法も教えた。

成果

保護者に教育の大切さを理解してもらうことができ、数名の子どもが小学校に入学した。

課題

家庭の事情で子どもを学校に行かせたがらない親もいる。「子どもの家」が人生最後の教育機会になってしまう子どもがいるので、読み書きや足し算ができるように指導していきたい。

③ 栄養プログラム及び身体測定

栄養失調や発育不全の子どもたちの栄養改善を行うため、味の素ファンデーション「食と健康」国際協力支援プログラムからの助成により、肉・魚・卵・野菜等栄養バランスを大切にしながら栄養価の高い食事を子どもたちに提供した。また子どもたちの栄養補給として今まで学びにきた子どもたち全員に毎日1本の紙パックの牛乳入り豆乳を購入し子どもたちに配布していたが、栄養価を考慮し手作りの豆乳に変更した。野菜が嫌いな子ども達のために、授業でも野菜の身体における働きや食の大切さを子どもたちに指導した。さらに、その成果を測定出来るよう身体測定を実施した。

楽しい給食の時間

豆乳が大好な子どもたち

成果

子どもたちの野菜嫌いがどのくらい減少したかを調べるために3日間のモニタリングを実施した結果、91%の子どもたちが野菜を食べていたことが判明した。「子どもの家」での栄養教育に加え、家庭でも栄養セミナーで学んだ母親たちが子どもに野菜を食べさせるように指導しているため、今まで野菜を残していた子どもが食べるようになってきている。

課題

家庭では、肉や卵を毎日摂ることができない子どもが多い。

④ 図書館の利用

図書館の部屋を使いやすいように整備し、授業のカリキュラムに図書館での読書の時間を設けた。

成果

本をたくさん手に取れるような環境を作ったため、子どもたちの本に接する時間が増えた。

課題

本を玩具変わりに遊んでしまう子どももいるので、本の読み聞かせの時間も増やしていきたい。

図書館で読書

友だちと本の読み聞かせ

2） 医療サービスと家庭訪問

2016年度は48件の緊急援助を行った。

親が病気や怪我で就労できない家庭にお米や卵などの支給（8件）、病院までの交通費（7件）、治療費や薬代等（21件）、家賃補助（1件）、葬儀補助（2件）、バイク修理（2 件）、粉ミルク補助（1件）、家屋修理補助（4件）、引越し補助（2件）を行った。

家庭には医薬品が無いため、怪我をした住民に対して、傷の悪化を予防する簡単な傷の手当てをし、あわせて手当ての方法を指導した。

成果

緊急時に食料や治療費を援助することができ、住民たちは高利貸しからお金を借りず高い利子の返済に苦しまずに済んだ。

課題

カンボジアは医療保険がないため、病気になったら高額な医療費を払わなければならない。衛生的な生活をおくることで病気を予防できるので、住民たちの保健衛生の意識向上に努めていきたい。

3） 屋台プロジェクト

① ロッティ

ゴミ集積場での有価物収拾で生計を立てている人たちに屋台の貸し出しを行う「屋台プロジェクト」を継続し、クレープ菓子「ロッティ」の販売を行った。プノンペン市内や学校周辺などで販売。研修を受けた販売員に屋台を貸し出すほか、材料を低価格で卸し、出店道具、自転車、屋台の修理等の支援も行った。

2017年3月末現在5名が屋台プロジェクトに参加し、生計を立てている。うち3名は自身の収益からバイクを購入し屋台を牽引し「ロッティ」を販売している。

成果

「ロッティ」の知名度が上がり、今まで売れ行きのよくない暑い時期や学校が休みの日も売れるようになり、収入を増やすことができた。

課題

屋台の仕事は、収入を増やすために子どもたちの登下校スケジュールにあわせ販売場所を移動しなければならない。体力が落ち年齢的に屋台の仕事が難しくなってきている人がいる。

② ハッピーアイス（幸せなアイス）

秋田県で「ババヘラアイス」販売を行う進藤冷菓の技術指導を得て、カンボジアの原材料を使ったアイスの製造・販売を2013年2月に開始し、今年度も継続した。研修を受けた販売員に屋台を貸し出すほか、アイスを低価格で卸し、出店道具、自転車、屋台の修理等の支援も行った。

販売場所を拡大し、より多くの就労者を増やすため、移動用アイストラックを導入し、販売員をプノンペンに送迎した。2017年3月末現在8名が小学校前などで「ハッピーアイス」を販売している。

ハッピーアイス

子どもたちが大好きなロッティ

成果

ゴミ集積場で働いていた母親たちにアイス販売の仕事を提供することができ、借金を返済することができた。

課題

学校が休みの日はアイスが売れず収入にならない。子どもたちの興味を引く付加価値を付け、安定的な現金収入を提供できるよう工夫が必要である。

4） プノンペン市郊外・貧困地域における女性の生活向上プログラム

NPO法人「芝の会」並びに味の素ファンデーション「食と健康」国際協力支援プログラムの助成を受け、地域の母親を対象とした包括プログラムを今年度も継続した。家庭を守る母親が「保健衛生」、「住環境」、「栄養」に関して知識を深め、実践することにより、家庭から地域全体の生活向上を図ることを目的としている。

① 母親ミーティング

対象となる地域の母親を集め、プログラムの実施背景や内容説明を行うとともに、母親が抱える問題や課

題などを話し合うミーティングを行った。

日付	参加数	内容
1月13日	82人	*教育の大切さ、小学校への入学手続きの仕方 *JLMM「子どもの家」活動について *コミュニティヘルスワーカー養成プログラムについて *「塩分・糖分の取り過ぎ」について（子ども病院栄養士）
3月14日	84人	*コミュニティヘルスワーカー（CHW）養成プログラムについて *選出された18名のCHWの紹介 *2名の CHW によるこれからの抱負 *味の素東京本社、及びAIN委員の方が来訪され、「食と健康」についてお話をしていただく

母親ミーティング

CHW の紹介

成果

コミュニティヘルスワーカー（CHW）の役割やCHW養成プログラム活動内容について地域住民に情報共有できた。

課題

母親ミーティング開催日が住民たちにきちんと伝わっていなかった。情報を正確に周知されるようなシステムを構築していきたい。

② お母さんセミナー

母親を対象とした家庭の生活環境改善に必要な「保健衛生」・「住環境」・「栄養改善」のセミナーを継続し次の内容で実施した。文字の読めない母親にも分かりやすい教材を用意。スタッフ3名でお母さんセミナーを実施した。

また、セミナーを実施するために必要な人材の育成、及び研修に参加した。

(1) 栄養改善セミナー

味の素ファンデーションからの助成を受け、第2フェーズとなる「コミュニティヘルスワーカーの養成と家庭の栄養改善」が新たに始まり、2015年度から3年間をかけコミュニティヘルスワーカー（CHW）を養成

している。今年度は CHW が対象地域各所で少人数のグループを対象に栄養改善セミナーを実施できるように、住民たちの住居前で10分から15分のセミナーの演習を行った。

当初、CHW 候補として 111 名の希望者が集まったが、就労や家事などの理由により減少し、最終的に57名の希望者に向けて CHW のための理解度テストとインタビューを2月に実施した。テストと面談の結果から18名の CHW 候補者を選出した。

またセミナーの一環として、料理の実践教室も「母親センター」で実施し、家庭でも入手可能で安価な食材を使い、栄養価の高いバランスの取れた食事を家族に提供できるよう指導した。今年度は CHW 希望者に限定したため参加数は減ったが、講師との密接な関わりを築くことができ、理解度が深まった。

回	日付	対象地区	参加人数	内容
第1回	5月5日6日 5月9日11日13日 5月18日23日25日	グループ1 グループ2 グループ3	29人 45人 35人	「3食品群の食品と働き」
第2回	5月26日 5月27日 5月30日	グループ1 グループ2 グループ3	19人 18人 17人	料理の実践教室 「豚肉サラダ」
第3回	6月8日9日10日 6月15日16日17日 5月23日24日	グループ1 グループ2 グループ3	17人 22人 16人	「バランスの良い食事」
第4回	6月27日 6月28日 6月30日	グループ1 グループ2 グループ3	10人 11人 13人	料理の実践教室 「ココナツと発酵魚」
第5回	7月5日6日 7月11日13日14日 7月18日21日22日	グループ1 グループ2 グループ3	19人 22人 17人	「朝食の大切さ」
第6回	7月27日 7月28日 7月29日	グループ1 グループ2 グループ3	16人 8人 9人	料理の実践教室 「焼き麺」
第7回	8月3日4日5日 8月10日11日12日 8月25日26日	グループ1 グループ2 グループ3	16人 19人 21人	「妊娠・授乳期の栄養」
第8回	8月29日 8月30日 8月31日	グループ1 グループ2 グループ3	15人 13人 10人	料理の実践教室 「鶏とキノコスープ」
第9回	9月5日6日 9月7日14日 9月15日16日	グループ1 グループ2 グループ3	16人 21人 15人	「新生児の栄養(生後6ヶ月まで)」
第10回	9月19日 9月20日	グループ1 グループ2	16人 16人	料理の実践教室 「豚肉雑炊」

	9月21日	グループ3	10人	
第11回	10月12日13日14日 10月17日18日 10月20日21日	グループ1 グループ2 グループ3	13人 18人 16人	「乳幼児の栄養」
第12回	10月26日 10月27日 10月31日	グループ1 グループ2 グループ3	14人 14人 16人	料理の実践教室 「パパイヤスープ」
第13回	11月7日8日 11月10日11日 11月21日22日	グループ1 グループ2 グループ3	20人 17人 18人	「よく噛む事の大切さ」
第14回	11月23日 11月24日 11月25日	グループ1 グループ2 グループ3	14人 13人 14人	料理の実践教室 「シジミ炒め」
第15回	12月7日8日 12月13日14日 12月21日22日	グループ1 グループ2 グループ3	16人 17人 16人	「復習 I」 （3食品群の食品と働き） （バランスの良い食事） （朝食の大切さ）
第16回	12月28日 12月29日 12月30日	グループ1 グループ2 グループ3	12人 10人 14人	料理の実践教室 「肉舞茸炒め」
第17回	1月5日6日 1月9日10日 1月11日12日	グループ1 グループ2 グループ3	16人 18人 17人	「復習 II」 （妊娠・授乳期の栄養） （乳幼児の栄養）
第18回	1月18日 1月19日 1月20日	グループ1 グループ2 グループ3	12人 8人 12人	料理の実践教室 「ブロッコリー肉炒め」
第19回	2月1日2日3日 2月8日9日10日 2月15日16日17日	グループ1 グループ2 グループ3	19人 22人 16人	コミュニテイ・ヘルスワーカー最終試験と面談
第20回	2月22日 2月23日 2月24日	グループ1 グループ2 グループ3	11人 7人 10人	料理の実践教室 「野菜炒め」
第21回	3月29日 3月30日 3月31日	グループ1 グループ2 グループ3	20人 10人 18人	料理の実践教室 「トウモロコシとココナッツミルクのお菓子」

栄養改善セミナー

栄養改善セミナー

(2) 保健衛生セミナー

「母親センター」にて保健衛生に関するセミナーを月に1回15時から16時まで実施した。参加者が多いため地域を3グループに分け、日にちを変えてグループごとにセミナーを実施した。

回数	日付	対象地区	参加人数	内容
第1回	5月3日 5月9日 5月17日	グループ1 グループ2 グループ3	32人 23人 24人	家庭内暴力と女性の人権
第2回	6月7日 6月14日 6月21日	グループ1 グループ2 グループ3	36人 13人 11人	熱/風邪、家庭内での子どもの事故復習
第3回	7月19日 7月25日 7月26日	グループ1 グループ2 グループ3	28人 16人 23人	衛生的なトイレ
第4回	8月1日 8月8日 8月15日	グループ1 グループ2 グループ3	29人 23人 19人	家庭内暴力、衛生的なトイレ復習
第5回	11月2日 11月3日 11月4日	グループ1 グループ2 グループ3	26人 18人 19人	足の衛生
第6回	1月3日 1月17日 1月24日	グループ1 グループ2 グループ3	21人 25人 16人	家の掃除
第7回	3月7日 3月21日 3月28日	グループ1 グループ2 グループ3	32人 12人 20人	予防接種

保健衛生セミナー

保健衛生セミナー

(3) 住環境セミナー

対象地域各所で週に1回の割合で住民たちが住んでいる住居前で、少人数に10分から15分くらいの短いセミナーを実施した。

回数	日付	対象地区	参加人数	内容
第1回	4月7日、21日、28日 5月5日、19日、26日 6月2日、9日、23日	グループ3 グループ1 グループ2	59人 49人 67人	村の衛生環境
第2回	7月7日、14日、21日 8月4日、11日、18日 8月25日9月1日、8日、	グループ3 グループ1 グループ2	46人 45人 69人	下痢と蝿
第3回	11月3日、10日、24日 12月8日、15日、22日 1月12日、19日、25日	グループ3 グループ1 グループ2	37人 45人 67人	家の周りの衛生
第4回	2月9日、16日、 3月9日23日	グループ3	41人	台所の衛生

成果

家庭での衛生環境に対する意識や家族の健康に対する意識が向上した母親たちは、野菜を多く食するようになったり、部屋の掃除習慣が身につくなど行動変容がみられた。

課題

知識を多く得た母親たちが、さらに学んだことを家庭で実践できるように、フォローアップしていきたい。

住環境セミナー

住環境セミナー

(4) 人材の育成・研修

セミナーを実施するために必要な人材の育成を目的にスタッフたちが次の研修に参加した。

日付	団体	内容
5月8日	Dumex Company	妊娠期の栄養
12月23日	Komacheat 病院 栄養士	塩分・砂糖の取りすぎ
1月26日27日	CEDAC(The Cambodian Center for Study and Development in Agriculture)	家庭菜園

(5) 5歳未満の子どもの身体測定を3ヶ月毎に実施

「栄養改善セミナー」の一環として対象地域の5歳未満の子どもの身体測定を3ヶ月毎に実施し、栄養不足の母親にはカウンセリングを実施しアドバイスをした。

成果

3ヶ月毎に子どもの身体測定をしているため、母親たちの子どもの健康への関心が高まった。

課題

なかなか健康状態が改善されないのは、風邪や下痢が関係していることがカウンセリングでわかった。風邪や下痢にかかりにくい健康的な体作りのための家庭での栄養改善や衛生的な生活を促していきたい。

(6) 野菜菜園

コミュニティヘルスワーカーのインセンティブとなり、地域の栄養改善に貢献できる商品を開発すべく野菜菜園を母親センター屋上にて試みた。屋上の屋根の一部を光が十分に差し込むように透明のトタンに張り替えたり、苗を鳥から守るために、鳥の侵入を防ぐネットを一面に張るなどの工夫をした。空芯菜、オクラ、サラダ菜、キュウリ、青梗菜、トマトなどの野菜を植えた。また、水耕栽培もこれらの苗を使い実験的に試みた。将来的には子どもたちの給食にも活用できるようにしていきたい。

成果

無農薬の空芯采が豊かに実り、初めての収穫を得ることができた。

課題

屋上で野菜菜園しているため、土を屋上に運ぶのが大変困難である。カンボジアで使われている簡単な

機械の導入を検討していきたい。

（7） 地域住民に向けた栄養に関する情報掲示版の設置

地域住民に向けた栄養に関する情報掲示版を各グループ3ヶ所に設置した。「バランスよく食べることの大切さ」のポスターや母親セミナーに関するお知らせ等を親しみやすい絵や写真を多用し、明るい色を使用したポスターで掲示した。常に新しく解りやすい情報を伝えていくように心掛けた。

成果

働いていて「母親セミナー」や「母親ミーティング」に参加できなかった母親たちにも情報共有できるようになった。

課題

字が読めない人たちが多い地域なので、絵や写真を多用した解りやすいポスターを心掛けていきたい。

村に設置した掲示板

豊かに実った空心菜

(7) 家庭の栄養改善評価の実施

コミュニティヘルスワーカー養成受講者の57名のお母さんたちの理解度を調べるために、また、「子どもの家」の子どもたちが、3食品群の食品を理解することができるか簡単なテストを実施した。お母さんたちには字が読めない人もいるので、5問の質問に○×で答える形式と、2問の面談に答えてもらった。子どもたちからは、5問の質問に挙手による回答を得た。

成果

コミュニティヘルスワーカー（CHW）養成受講者の70％が理解度テストに合格した。合格した CHW は、栄養に関する知識も増え、人前で話すことにも慣れてきている。今後の彼女たちの活躍に期待していきたい。

また、子どもたちは82％の正解率を得ることができた。先生たちが繰り返し授業で食の大切さを指導してきた成果がでた。

課題

セミナー参加者の多くが自信をつけてきているが、まだ1人で活躍できるほど指導力をつけていない。養成受講者数が多すぎで実施できなかった外部研修を来年度は実施していきたい。

③ 託児所

「母親センター」の2階を使い、3歳～5歳児の30名を朝6時30分から18時30分まで受け入れた。子どもたちは、午前中は隣接する「子どもの家」で学び、給食後、「母親センター」において昼寝、水浴び、給食、授業、おやつ、遊びをして1日を過ごす。

授業では、基本的なクメール語の読み、歌、絵本の読み聞かせや塗り絵・パズルなど遊びをとりいれた時間を子ども達に提供した。先生1名、アシスタント3名が交代で指導を行った。

成果

子どもを預かることで母親が安心して働きにいけるようになった。子どもたちに沢山の歌を覚え、楽しんで友だちと学べるようになった。また、子どもたちの情操を豊かにしていくために、部屋を明るい色で壁面装飾した。託児所は好評で、多くの母親たちが子どもを預けたがっているため、来年度増築することになった。

課題

子どもたちの情操を豊かにしていくための教材作りと指導力の向上を目指していきたい。

託児所の子どもたち

おやつを食べる託児所の子どもたち

5） その他

a） 月1回開催される「レイミッショナリーの集い」に出席

b） カトリックNGO会議に出席（6月、9月、1月）

c） カンボジアで活動する修道会、カトリックNGOとの連携

d） プノンペン教区主催の行事、ミサに出席

e） 公立小学校、教育省、NGOなど地域機関との連携

f）「子どもの家」クメール正月ゲーム大会(4/8)、「子どもの家」プチュンバン祭(9/23)、「子どもの家」クリスマス会（12／22）実施

g） 「子どもの家」にて子どもたちの健康診断実施（Edgewood College Henry Predolin School of Nursing and American Family Childrens Hospital・5/27＆1/4 ）

h）「子どもの家」の子どもたちとプノンペン市内の公園に遠足(7/15)

i） JLMM スタッフの田舎に職員旅行を実施した。(5/13.14.15)

j） 味の素ファンデーション「食と健康」国際協力支援プログラムからの助成金、事業報告書・会計報告提出（4月、10月、3 月）

k） 味の素ファンデーションからの助成、「コミュテイヘルスワーカーの養成と家庭の栄養改善」プログラム

の現地視察受け入れ(3 月)

l) ドイツ「Die Sternsinger」助成金申請、及び子どもの家、託児所、母親セミナーにおける運用と決算報告(6月、7月、1月)

m) 大阪教区への助成金申請、及び運用と決算報告(4月)

n) NPO法人「芝の会」の助成金運用と決算報告(5月)

o) 外務省、教育省への月間活動報告、決算報告(4月、7月、10月、1月)

p) 外務省からの活動合意書取得のための書類作成(11月)

q) ENJJ(大使館、NGO、JICA、商工会議所の連絡会)全体会議に出席

r) JLMM カンボジアスタッフ定期的ミーティング

s) 43組のべ336名のステンミエンチャイ訪問・見学の受け入れ

Ⅱ プルサート州コンポンルアン水上村 生活向上支援

1. 対象地域と地域概要

プルサート州コンポンルアン水上村

水上村コンポンルアンは、カンボジアのほぼ中央にあるトンレサップ湖上に位置している。この村では1,100世帯、5,000人の人々が船の家で生活しており、約60%がベトナム人である。住民は主に漁業で生計を立てているが、貧困世帯が多く生活全般に様々な問題を抱えている。住民は生活用水として湖の水をそのまま利用しているが、生活廃水や家畜の排泄物、ゴミなども全て湖に廃棄しているため、水質汚染は著しく健康に及ぼす影響も大きい。また、多くのベトナム人はカンボジア語が話せず、国籍を持たないといった理由で公共機関へアクセスすることができず、カンボジア社会から孤立した状態になっている。医療機関へかかることができないために簡単な病気でも死に至るケースが多い。子どもは言葉の問題から公立の学校へ通えないなどの多くの問題を抱えている。

2001年から JLMM カンボジアと住民の協力のもと、水上教室を設置し、識字教育、住民によって組織された基本的な保健サービスの管理、運営を行ってきた。

2. 活動

1) 保健衛生プログラム

① 水浴びプログラム

週1回の水浴びプログラムを継続実施した。湿疹用石鹸、虱用石鹸を使用し家でも使えるように一つ 500 リエル(約10円)で販売した。衛生指導や栄養指導も合わせて行い、健康状態の把握、爪切り、耳掃除、薬の塗布などのケアも継続的に行った。水浴びプログラムに参加する子ども達は平均して1回に 20 人程度である。

成果

水浴びプログラムに通ってくる子ども達の湿疹や虱などの症状は、年々減少している。

識字教室の先生に加え、識字教室の卒業生もこの活動を手伝ってくれるようになっており、協力の輪が広がっている。虱用石鹸は洗髪後10分経った後に石鹸を流し落とす必要があるが、以前はすぐに流し落としていた。しかし現在は先生の指導により、まず頭を洗い、次に体を洗い、時間を置いてから頭髪部の石鹸を流し落とすことが習慣化できた。

課題

現在学校に通って来ている子ども達の年齢層が上がり、10 歳以上の子どもが半数を占めている。そのため、10 歳以上の子ども達への水浴びが行えない。先生達との話し合いの中で、自分自身で体を洗う事ができない小さな子ども達だけに水浴びを行う事が決まった。そのため、水浴びを行う子どもが少なくなってしまった。女子には虱対策のため、髪の毛だけでも洗えるようにしていきたい。

虱用石鹸で洗う様子

水浴び後の爪切り

② 病人支援プログラム

病院受診のための交通費支援、病院や病人受け入れ施設までの付き添い、軽症のケースに対しての健康相談や、健康管理などの教育・指導、食費の支援などを行った。交通費支援、病人訪問などに関しては、水上村教会の病人支援グループと協働している。

関わった病人は、糖尿病、百日咳、胃の検査・成長通による膝の痛み、心臓病、喘息、足の怪我、下痢、気管支炎など様々であった。病人支援は 55 名、60 件ケースであった。

成果

支援をすることで安心して病院に行ってもらうことができた。水上村の住人にどのような病気が多いか把握することが出来た。

課題

利用者が教会関係者に偏ってきているので、村の住人も利用できるように教会が病人支援をしている事を地域に広くアピールするとともに、協力者も募っていきたい。

神父様との家庭訪問

村人への衛生指導

③ ホームケアプログラム

主に病人支援で関わった病人（退院した病人など）の家庭を訪問し、在宅での簡単なケアや処置、栄養剤の支援を実施。また本人や家族に対し健康指導や栄養指導、相談活動なども合わせて行った。

成果

病院に行く時だけの支援ではなく、家庭での継続的な支援が可能となった。

病気が完治し利用者の元気な姿を見ることが出来た。

課題

日々移動を繰り返す水上村では病人の家の位置を把握することが難しく、訪問できないこともあった。今後は病人との関係を密にし、訪問を続けられるようにしたい。

2） 母子保健に関する活動

月に1回午前9時から11時までの2時間、妊婦や乳幼児へのケア（コンポンルアン保健センターで受けられるサービスと同様のサービス）のため、同センターの産婦人科医に依頼し予防接種及び妊婦への教育ワークショップを行った。母乳不足の場合は粉ミルクを支援。

また、患者がクリニックを訪れやすくするために、カンボジア語からベトナム語への通訳者を雇用した。より多くの人々に利用してもらうため、予防接種及び妊婦への教育ワークショップ実施前に村全体で告知を行った。

成果

クメール語（カンボジア語）に不安を抱くベトナム人住民も安心して予防接種を受けることが出来た。

教育ワークショップによって妊娠期間、出産に対する不安を軽減することが出来た。

妊婦同士、お母さん同士のコミュニケーションの場を提供することが出来た。

課題

教育ワークショップは個人指導が主なものになっている。グループワークショップの再開を目指したい。

母子保健プログラム　ワークショップ

予防接種を受ける乳児

3） 識字教育プログラム

教会が運営する識字教室「マリアーノ学校」では、ベトナム人の子ども達にカンボジア語とベトナム語の勉強を無料で教えている。JLMM カンボジアは、その学校のカリキュラム準備、教材の支援などを行った。

2017年3月末日現在、カンボジア人先生2名、ベトナム人先生1名の計3名がカンボジア語の授業を行っている。

授業は午前3クラス。また午後ベトナム人の先生 1 名がベトナム語の授業を行った。通学する生徒数は1年平均して午前70名、午後70名程度である。2005年から継続している通学船による子どもの送迎も実施した。先生とスタッフを含めたミーティングを行い、行事の打ち合わせやカリキュラムの準備や指導力の向上に努めた。今年度も年中行事（卒業旅行、クリスマス会等）を先生、生徒と共に準備し、行うことが出来た。

成果

毎月行われる先生たちとの会議に、神父様も参加でき、神父様と先生との意見交換ができている。子どもの出席状況をより細かく把握し、親との関係性を深める事ができており、通学船の利用料の徴収も漏れなく行っている。

課題

家族でベトナムへ帰り、他の村への引っ越し等の理由で、途中で識字教室を辞めていく生徒もいた。またベトナムへ帰る村人が増えてきているため、クメール語の授業時間を減らし、ベトナム語の授業時間を増やしてほしいとの要望が村人から出ているため、先生達と会議を重ね決めていきたい。

クメール語教室の様子

ベトナム語教室の様子

4） 栄養改善プログラム

2005年2月より始まった栄養改善プログラムを今年度も継続して実施。週一回の水浴びプログラムの前、栄養価の高い食事（お粥、豆乳、バナナの甘味）を提供し合わせて栄養指導を行った。参加人数は1回平均70名であった。

成果

栄養価の高い食事を提供できたとともに、子ども達にとって週に一度の楽しみを提供することができた。

課題

栄養指導に関しては識字教室の先生に一任していたが、結果、内容が単調になってしまった。説明しやすいように何種類か教材を用意するなどしていきたい。

栄養価の高い　お粥

美味しく食べる子ども達

5）　奨学金支援（里親制度）

2016年度は日本の里親の方からの支援により高校生1名と専門学生１名の里子が奨学金を受けた。里子の高校生はバッタンバン市にあるバッタンバン教区が運営する寮で生活しながら学校へ通っている。専門学生の子は、先生になる為の専門学校に通っており、同じ学校の生徒と下宿で共同生活している。

成果

里子とは、継続的に訪問、連絡を取り合うことで、状況を把握することができている。

課題

専門学生の子は、学校を辞めてしまい、連絡が取れなくなっている。教会を通して支援を行っていなかったため、学校を辞めた時のフォローが難しい。今後は必ず教会を通して支援を行っていきたい

6）　公立小学校との連携

マリアーノ学校の卒業生が小学校に入学した後も、勉学を順調に続けることができるように、公立小学校との連携を図った。通学船による子どもたちの公立小学校への送迎は2012年5月まで実施していたが、通学船の運転手が確保できないまま、保留となっている。子ども達は親から交通費をもらい、一般の交通船に乗って小学校に通学している。

成果

通学船がなくても家族の出費により子ども達の数人は通学することができた。

課題

通学のための船代を出すことのできない貧困家庭の子ども達が、通学を継続できるしくみを考えていく必要がある。マリアーノ学校の卒業生が公立小学校の授業についていけず、中途退学する生徒がいるので、マリアーノ学校卒業生へのフォローが必要となってくる。

7）　浄水プロジェクト

2007年4月より湖の水を浄化して住民に安価で販売するプロジェクトを実施。2010年度から運営管理を現地教会に委託した。JLMM カンボジアは、その運営に協力している。

成果

安価で安全な浄水を提供する事によって水上村の住民の衛生状態が向上した。

課題

年々村人からの需要が増え、乾季には供給が追いつかないほどになっている。供給量増加に向けた取り組みが必要である。また、浄水装置のメンテナンスや水質検査を実施していく必要がある。

浄水装置

村人が水を買いにくる様子

8） 青年活動

教会の青年たちが組織する青年会の活動に協力した。具体的な活動は、ミサ奉仕、子ども達の歌の練習、病人訪問、お葬式への参加など。その活動にかかる費用の一部を支援した。

成果

青年活動だけではなく、クリスマスや復活祭など教会や JLMM が行う諸行事にも協力が得られた。

課題

活動が単発で終わることが多い。今後は持続していける活動を考えていきたい。

陸で仕事をしたり、結婚したり、ベトナムに帰るなど水上村を離れていく青年がいるが、その時々の親睦を深め、青年育成につながるような活動に向けて、青年たちと共に関わっていきたい。

9） その他

a）カンボジアで活動する修道会、カトリック NGO との連携

b）「カンボジア福祉基金藤沢」の運用

c）水上公園の管理

d）コンポンルアン教会担当司祭及び教会リーダーグループとの定期ミーティング

e）公立小学校、教育省、警察、漁業局などをはじめとする地域機関との連携

f）日本や他の外国からなどの訪問者の受け入れ(45 組のべ 308 名)

g）各教会・個人へ向けた毎月の活動・会計報告

h）日本からの支援物資の配給

i）海外宣教者を支援する会へ支援申請（教会改修）

j）シンガポールからの医師、医学生の受け入れ（12 月）

k) スペイン人大学生による 4 日間のサマーキャンプの実施(9 月)

l) バッタンバン教区パストラルミーティングに参加(10 月)

m) JLMM カンボジアスタッフ定期的ミーティング

n) スタディツアーの受け入れ

Ⅲ シェムリアップ小教区支援

1. 対象地域と地域概要

シェムリアップ小教区はバッタンバン知牧区に属し、カンボジア北部のアンコール地域を担当している。2015年12月から主任司祭が交代となり、全ての点で見直しが始まっている。隠れた貧困・見えない差別の広がりに対しての、継続的な支援が強く求められている。シェムリアップ市内の聖ヨハネ教会を中心に、地域内に4つの教会、6つの子どもセンター、2つの農場を現地の人々や専門家の協力を得て運営している。

また、シェムリアップ小教区はアンコールワットなど世界的遺産にも近く、一年中多くの訪問者が押寄せる特異な場所となっている。2015年以降、教会や子どもセンターなどの施設の老朽化のために、修理・改築が進行中である。支援活動地域の概観図と結果の概要は、以下のとおりである。

シェム リアップ教会の 8 共同体

1－1 バンテイミエンチャイ州タオム村

シェムリアップから70km の所に位置する。189世帯、900名以上の人が住んでいる。稲作を中心の農業、川や水田にある沼地での漁業、小売業や物資運搬で生計を立てているが、現金収入は少なくタイへ出稼ぎに行く家族も多い。違法出入国のため、拘留後に村へ強制送還される場合もある。村内に小学校があるほか、中学校や保健センターまでは、約20km の道程である。100年以上前に宣教師が建てた教会は内戦を通して廃墟と化していたが、2004年以降に近隣住民とバッタンバン知牧区の支援を受け、現在は聖マリア教会として復活、子どもセンターは幼稚園・図書室・お粥給食の場として、また青少年の育成の場としても活用されている。

1－2 シェムリアップ州クナ・トマイ村

シェムリアップから5kmの所に位置する。クナ・トマイ村は、内戦時代にタイの難民キャンプにいた帰還難民により開かれた村と言われている。現在、村には約334世帯、1，566名以上の人が住んでいる。シェムリアップ市内に近く、市内で働き高額の収入を得ている家庭から、農業のみまたは仕事のない貧困家庭まであり、貧富の差が激しい。村内では賭博や麻薬のために、家庭崩壊の危機も生じている。村から通える範囲内に幼稚園から高校まであり、保健センターや州立病院へも近い。教会の子どもセンターがある。

1－3　シェムリアップ州ピアス・ネン（チャッおよびトマイ）村

シェムリアップから北に30kmの所に位置する。ピアス・ネン・チャッ村には1，054名の234世帯、ピアス・ネン・トマイ村には1，250名の321世帯が生活している。半数以上の貧困家庭の住民は、田畑が少なく森で採取した芋を食用にし、販売している。それ以外に野菜栽培、薪集め、わら屋根作り、小売業、シェムリアップ市内までの出稼ぎなどの仕事に従事している。住民は衛生に対する関心が薄く、皮膚疾患、胃炎、下痢の症状が多く見られる。村内には小学校、中学校、保健センター、教会の子どもセンターおよび農場がある。

1－4　シェムリアップ州コンポンクレアン水上村

コンポンクレアン村はシェムリアップから東に55km、プノンペン方向に行く道の途中にあり、5～6mの高床式住居群が見られる。人口1，675名、775世帯が生活している。トンレサップ湖畔にあり、雨季は水上、乾季は陸上の村となる。漁業、プロホック[1]生産、小売、物資運搬などで生計を立てている。村はコンポンクレアン寺を中心に形成されており、寺内に小学校、保健センターがある。村の小学校と提携して教会の子どもセンターでは幼稚園生、小学校1・2年生を受け入れている。

1－5　シェムリアップ州チョン・クニア水上村

チョン・クニア村はトンレサップ湖上に位置し、シェムリアップから雨季で17km、乾季で25km離れた場所に位置する。船で雨季に30分、乾季は車だと1時間ほどで到着する。この村には約1，050世帯、6，000名以上の人が水上で生活しており、ベトナム人が大多数を占め、他にカンボジア人とチャム族[2]の人々がいる。漁業を中心に観光客相手の商売や小売業などで生計を立てている。貧困世帯が多く、生活全般に様々な問題を抱えている。人々は生活用水として湖水をそのまま使用しているが、生活排水や家畜の排泄物、ごみなども全て垂れ流しにしているため、水質汚染は著しく健康に及ぼす影響も大きい。村内には公立小学校が5校、公立中学校が1校、ベトナム人のための学校、チャム族のための学校、カリタス・カンボジアが運営している診療所がある。聖パウロ教会と子どもセンターがある。

1－6　バッタンバン州プレクトアール水上村

プレクトアール村はトンレサップ湖上にあり、シェムリアップから55kmの所に位置する。ここには鳥獣保護区があり、野鳥(ペリカン、サギなど)の飛来を雨期明けの11月～翌年1月末頃に観察することができる。移動は船でシェムリアップから、雨季に1時間半、乾季は車と船で3時間かかる。この村では980世帯、約4，200名が水上で生活しており、大多数がカンボジア人、他にベトナム人、チャム族の人々がいる。住民は主に漁業で生計をたてている。他に魚の加工業、船での小売業、観光客向けの商売をしている。また、違法だが鳥・亀・蛇・猿などを捕獲して収入を得ている場合もある。近年はタイへ出稼ぎに行く家族も多い。村内には、ユニセフの援助による公立小学校2校、中学校、聖ヨセフ教会と子どもセンターがある。

JLMM のシェムリアップ小教区支援は2007年より始まり、2016年度は細川が担当し、財務管理支援、諸活動支援、地域のカトリック共同体づくりに関わった。

---

[1] 小魚の塩漬け発酵食品でカンボジアの伝統的な調味料。
[2] イスラム教徒

2. 活動

1） 小教区財務管理

小教区内の7施設での社会活動および4つの教会での典礼、公教要理に関わる会計に従事し、日常の仮払いや精算と海外からの寄付金の公正な処理を行い、主任司祭と協力して財務・財産管理を行った。また、支援者への報告、寄付品の管理、売店の商品購入・管理・販売を担当した。

2） 活動支援

典礼・公教要理・社会活動という小教区における3つの主な働きのうち、典礼の準備と社会活動の支援にあたった。小教区の社会活動の概要は、以下のとおりである。

① プレスクール

子どもセンターでは就学前の幼稚園児を対象にプレスクールを開いている。基本的なクメール語の読み、歌、絵本の読み語り、塗り絵などの遊びをとりいれた時間を子ども達に提供した。

地域：チョン・クニア水上村を除く全ての子どもセンター

対象：3～5歳の子ども、各センター30名程度

曜日・時間：月～金曜日　午前8：00～10：00

② 補習授業、外国語・コンピュータ教室

小学校低学年を中心に、クメール語の読み書き、基本的な算数、歌、遊びの時間を取り入れた補習授業を子どもセンターで展開している。小学校の授業は半日で、教師も欠席することがあるため子ども達の習得には時間がかかる。しかし家事手伝いもしながら通ってくる子どもも多く、学習意欲は高い。チョン・クニア水上村ではベトナム語の学習に多くの時間を割いている。

地域：全ての子どもセンター

対象：小学校低学年　20名程度

曜日・時間：　月～金曜日　午前8：00～11：00/午後1：00～17：00のいずれかの時間で1～2時間

対象：小学校高学年以上を対象に、英語・中国語の教室を適宜実施。

地域：シェムリアップ、クナ・トマイ、タオム

対象：20名程度

曜日・時間：月～金曜日

中国語（クナ・トマイのみ）…午前6：30～7：30・午後1：00～2：00

英語（タオムのみ）…午後4：00～6：00各１時間2クラス

③ おかゆ給食

子どもセンターでは、週に1～2回おかゆ給食を実施した。村の子ども達は低栄養状態で、米と塩分以外、栄養価の高い食品を継続して摂取できない貧困家庭が多い。子ども達の栄養状態改善のために、各国の支援を受けたシェムリアップ教会が、年間経費を約2万ドルかけて各地の子どもセンターで実施している。衛生指導、栄養指導、歌唱指導、ゲームなどの後におかゆを配食するため、教育の機会ともなっている。また村人や青年たちが手伝ってくれるため、教会の日常活動を知り、子どもや訪問客との関わり合いの好機ともなっている。

原則、シェムリアップ教会では毎週日曜日約80名、タオムでは毎週火曜日約120名、クナ・トマイでは毎週日曜日70名、ピアス・ネンでは毎週木曜日約200名、農場では毎週日曜日約70名、プレクトアールでは毎週日曜日約100名、コンポンクレアンでは毎週土曜日約120名、チョン・クニアでは毎週日曜日約50名の子どもが集まっている。

④ 図書館の運営

クメール語の本以外にも英語の聖人物語などが所蔵されている。各子どもセンターの教師が管理し、子どもセンターが開いている時間に自由に利用することができる。また、教師が時々本の読み聞かせを行い、教育の機会としているところもある。しかし、書籍の破損や老朽化も激しく、修理や補充などが必要である。

地域：タオム、クナ・トマイ

⑤ SSVP(Society of Saint Vincent de Paul)活動

国際的な信徒組織である「聖ビンセンシオ・ア・パウロ会」の活動がシェムリアップ小教区内でも盛んである。タオム、クナ・トマイ、プレクトアールの青年たちが中心となり、病者・高齢者・母子家庭・貧困家庭などを訪問し、支援した。週一回の支援活動の報告と振り返り、要理勉強のための打合せが行われる。非信徒の青年も多数参加し、活動を通してカトリックの教えに興味をもつほか、教会の社会活動の中で大きな力を発揮している。

⑥ 井戸・トイレ設置

タオム村の聖マリア教会に設置された深さ40mの井戸と浄水装置を利用し、近隣の村人にも安全な水を提供した。以前の村内に設置した家庭用の井戸26基は、故障が目立ち、当初の計画とおりの十分な水の供給が出来ていない。

⑦ 刑務所・病院訪問

シェムリアップ市内にある州立病院、軍病院、刑務所に果物・食料等を持って毎週土曜日に訪問した。州立病院内は患者で溢れ、入院環境も決して衛生的とは言えない。入院患者は自炊のため、貧しい患者は十分な食事も摂れない実情がある。軍病院も貧しい兵士が多く、国境から送られてくる兵士もいる。付き添い家族が患者の看病をしなければならず、身寄りの無い者や遠くから入院している患者は精神的にも不安である。州立刑務所にはカンボジア人以外にもベトナム人・タイ人・インドネシア人も収容され、1，000名以上の受刑者で溢れている。家族の訪問が少なく、毎回、刑務所が要請したグループごとに用意する300食分の支援物質は、大いに喜ばれている。しかし、直接受刑者と話をする時間が少なく、要望が満たしきれていない。

⑧ 農業

ピアス・ネン・トマイ村にシェムリアップ小教区が保有する17ha ほどの農地のうち4ha を農場として利用した。マンゴーやジャックフルーツなどの果樹、葉物類やトウモロコシなどの野菜栽培、2ha の農地整備も2012年度より始まっている。2人の作業員と2家族が農場に住み込みで管理している。現在「牛銀行」以外には、特色ある畜産事業は無い。

タオム村の農地21ha では、一毛作の水稲栽培が中心である。2013年度から信者家族に農地を貸出し、収穫した玄米の一部を教会に物納している。

3） 奨学金制度

小教区の奨学金は 66 名の奨学生に支給しているが、JLMM や個人からの支援金は、この中の奨学生44名に支給されている。内訳は中高生28名、大学生7名、職業訓練校生8名、料理学校生 1 名である。支援形態も期限付きの里親制度を導入するなどの多様性を取り入れている。生徒や学生たちも自宅や学生寮からの通学であり、なかなか現地を訪問して一人一人の近況報告を聞けないのが実情である。急増する進学希望者に対する奨学金の確保に、苦慮している。

4） 訪問者の受け入れ

シェムリアップという世界的観光地としての地域特性による多数の巡礼者の現地視察、旅行者の見学、支援者の受入など、多くの外国人訪問者の滞在・見学先の調整を行った。時にはカンボジア人責任者と一緒に現地へ同行し、必要に応じて小教区や各センターの活動について説明を行った。

5） 共同体づくりへの参加

教会に集うだけでなく、仲間と共に貧困家庭・病者の家・障害者の家などの訪問を不定期に行った。言葉や宗教の違いを超えて、現場で知り得る個人の抱える問題に向き合い続けている。時にはその場での決断を求められることもあり、大いに悩むことも多い。主任司祭や仲間への報告や振返りをとおして、共に歩もうとする温かい励ましを実感させられる。

Ⅳ その他（JLMMカンボジアとしての活動）

1） スタディツアー・ボランティア・活動地見学

次の日程で JLMM 関連カンボジア・スタディツアーの受け入れを行った。

2016年7月30日～8月6日	上智福岡高等学校・スタディツアー
2016年8月23日～30日	JLMM 夏のカンボジアツアー
2017年2月28日～3月5日	清泉女子大学カンボジア・ボランティアスタディツアー
2017年3月28日～4月2日	（NPO 法人）芝の会 カンボジア・スタディツアー

2） 日本の修道会との連帯

「ショファイユの幼きイエズス修道会カンボジア共同体」、及びオー村で活動をする漆原恭子さんと活動や事務に関するミーティングを実施。査証手続きをサポートした。

3） ラチャナ・ハンディクラフト・バッタンバンの支援

女性自立に向けた活動を行う現地 NGO「ラチャナ・ハンディクラフト・バッタンバン」の商品を JLMM プノンペン事務所にて販売。バザー用、オーダー受注、東京事務局への発送作業等を行った。

4） 東京事務局との連絡調整

2017年3月12日～18日	味の素ファンデーションからの助成、「コミュニティヘルスワーカーの養成と家庭の栄養改善」の現地視察受け入れとコミュニティヘルスワーカーのためのインセンティブ開発

5） 黙想会・祈りの集い

2016年1月5日～8日　シェムリアップ Metta Karuna Centre において黙想会を実施した。

また、月に一度、祈りの集い及び活動報告を行った。

6） 一時帰国

一年間の活動を終え、次のとおり一時帰国した。

浅野美幸　　2016年9月13日～10月16日

7） 一時帰国報告会

一時帰国の時期に合わせ、各地で報告会を実施した。

（「11．報告会・説明会・講演」で後述）

浅野美幸

2016年9月24日　横浜教区学生連盟

2016年9月25日　横浜教区カトリック菊名教会

2016年10月6日　味の素株式会社本社にて、子どもの家での栄養改善、家庭における栄養改善の活動報告

2016年10月8日　ニコラバレ・ハウス（東京・四ツ谷）

2016年10月12日　NPO 法人「芝の会」にて活動報告（旗の台）

2016年10月15日　派遣募集説明会にて活動報告（フランシスコ会聖ヨゼフ修道院東京）

井手司

2016年6月18日　福岡教区カトリック久留米教会（同日2回開催）

2016年6月19日　福岡教区カトリック久留米教会

2016年6月24日　大分教区カトリック大分教会

2016年6月26日　大分教区カトリック宮崎教会

2016年7月1日　イエスのカリタス修道女会本部

2016年7月2日　ニコラバレ・ハウス（東京・四ツ谷）

2016年7月3日　横浜教区カトリック藤沢教会

2016年7月9日～10日　CLC 霊操

8） その他

支援者・関係者へのクリスマスカード送付

（2）東ティモール

Ⅰ　プライマリ・ヘルスケアの普及促進事業

1．SISCa（母子健康診療サービス）[3]セミナーの実施

[3] 保健省実施しているプログラムの一つ。医師・看護師・PSF が月に１度村々を訪問して行う母子健康診療サービ

ラウテン県イリオマール準郡では、PSF[4]（政府保健ボランティア）のインセンティブが支払われない等問題があり、SISCa プログラムの実施があまり行われてきていなかった。そのため、村長・PSF を集め、SISCa について再度説明するとともに、各人が自分たちの役割を再確認する機会を提供した。

実施日：5月23～25日（3日間）

実施場所：イリオマール準郡役所

実施関係者：ラウテン県保健局スタッフ3名（公衆衛生プログラム、栄養プログラム、母子保健プログラム各1名）、イリオマール準郡 CHC[5]スタッフ2名、AFMET スタッフ3名

参加者：イリオマール準郡準郡長1名、村長4名、PSF20名　計33名

2．5歳未満の子どもの身体測定、栄養セミナー、調理セミナー

SISCa（母子健康診療サービス）が実施されていない集落をイリオマール準郡 CHC 栄養プログラム担当者、PSF、看護師／助産師と共に訪問し、5歳未満の子どもの身長・体重・上腕の測定を行った。

身体測定だけではなく、参加者に向けて栄養セミナー・調理セミナーを実施し、母子手帳の重要性、栄養失調の原因、栄養失調が身体に与える影響などを、教本を使用して指導した。また、栄養のある食事について母親に理解してもらう目的で、モリンガを使用した食事を作り、メニューを配布。家庭でも栄養のある食事を作れるよう工夫した。

実施日：6月13～30日、7月7～25日、8月2～19日、9月16日、10月3～21日、12月5～22日、2月1～21日（計　69回）

実施場所：5村15箇所

実施関係者：イリオマール準郡 CHC 栄養プログラム担当者 1 名、看護師 1 名、助産師 1 名、PSF5 名、AFMET スタッフ 3 名

参加者：5歳未満の子ども、母親ほか

プライマリ・ヘルスケアの普及促進事業　身体測定・栄養セミナー・調理セミナー　詳細

回数	集落名　（村名）	参加者		セミナー内容	実施日
		5歳未満の子ども	一般		
第 1 回	レイロール（アイレベレ）	11 名	39 名	・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因	6 月 13 日
第 2 回	ブブタウ（カエンリウ）	12 名	32 名	・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因	6 月 15 日
第 3 回	アカディルロ（フアト）	16 名	38 名	・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因と影響	6 月 17 日
第 4 回	オソヒラ、ワタマタル（イリオマール I）	16 名	32 名	・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因と影響	6 月 20 日
第 5 回	アラアラ、カエンタウ（イリオマール I）	12 名	27 名	・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因	6 月 22 日
第 6 回	ワタオマール（フアト）	6 名	17 名	・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因	6 月 23 日
第 7 回	カイダブ（イリオマール II）	32 名	40 名	・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因と影響	6 月 24 日

ス。SISCa には Meja-メジャ（テトゥン語で机の意）と呼ばれる６つのデスクがある。
Meja1:Registration　Meja2:Nutrition　Meja3:Consultation for pregnant women and nursing mothers
Meja4:Assistance Environmental Health Meja5:Consultation,Prescription Meja6:Health Promotion

4 政府保健省によって組織されている保健ボランティア。各村に５人ずつ配置されている。英訳は、Family Health Promotor。

5 Community Health Center

第 8 回	ボイキラ (イリオマール II)	15 名	23 名	・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因と影響	6 月 27 日
第 9 回	ヘイタリ (アイレベレ)	24 名	18 名	・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因と影響	6 月 29 日
第 10 回	マアラファル (アイレベレ)	24 名	33 名	・母子手帳の重要性 ・栄養失調の原因	6 月 30 日
第 11 回	マアラファル (アイレベレ)	19 名	54 名	・栄養失調の身体への影響 ・B 型肝炎予防接種	7 月 7 日
第 12 回	レイロール (アイレベレ)	19 名	43 名	・栄養失調の身体への影響 ・B 型肝炎予防接種	7 月 11 日
第 13 回	ワタオマール (フアト)	8 名	23 名	・栄養失調の身体への影響 ・B 型肝炎予防接種	7 月 12 日
第 14 回	カエンタウ (イリオマール I)	12 名	32 名	・栄養失調の身体への影響 ・B 型肝炎予防接種	7 月 13 日
第 15 回	リウファルノ (カエンリウ)	12 名	35 名	・栄養失調の身体への影響 ・B 型肝炎予防接種	7 月 15 日
第 16 回	ブブタウ (カエンリウ)	6 名	22 名	・栄養失調の身体への影響 ・回虫予防について	7 月 18 日
第 17 回	ヘイタリ (アイレベレ)	13 名	23 名	・栄養素について	7 月 20 日
第 18 回	カイダブ (イリオマール II)	38 名	56 名	・栄養素について ・デモクッキング	7 月 22 日
第 19 回	ボイキラ (イリオマール II)	17 名	37 名	・栄養素について ・デモクッキング	7 月 25 日
第 20 回	カエンタウ (イリオマール I)	24 名	43 名	・栄養素について ・デモクッキング	8 月 2 日
第 21 回	ヘイタリ (アイレベレ)	17 名	31 名	・栄養素について ・デモクッキング	8 月 3 日
第 22 回	ワラファル (アイレベレ)	23 名	46 名	・栄養素について ・デモクッキング	8 月 4 日
第 23 回	バイタウ (イリオマール I)	16 名	33 名	・栄養素について ・デモクッキング	8 月 5 日
第 24 回	オソヒラ、ワタマタル (イリオマール I)	10 名	23 名	・栄養素について	8 月 8 日
第 25 回	ワタオマール (フアト)	11 名	37 名	・栄養素について ・デモクッキング	8 月 9 日
第 26 回	リヒナ (イリオマール I)	20 名	52 名	・母子手帳の重要性 ・栄養素　・栄養失調の原因	8 月 10 日
第 27 回	ボイキラ (イリオマール II)	12 名	34 名	・発育曲線の見方	8 月 11 日
第 28 回	レイロール (アイレベレ)	16 名	35 名	・栄養素について	8 月 12 日
第 29 回	カイダブ (イリオマール II)	21 名	41 名	・発育曲線の見方 ・マラリア予防	8 月 15 日
第 30 回	ベトゥマウコロン (イリオマール II)	19 名	40 名	・母子手帳の重要性 ・栄養素　・栄養失調の原因	8 月 16 日
第 31 回	リウファルノ (カエンリウ)	33 名	39 名	・母子手帳の重要性 ・マラリア予防	8 月 17 日
第 32 回	ラリミ (カエンリウ)	28 名	52 名	・母子手帳の重要性 ・栄養素　・栄養失調の原因	8 月 18 日
第 33 回	ブブタウ (フアト)	21 名	34 名	・栄養素について ・マラリア予防	8 月 19 日
第 34 回	リヒナ (イリオマール II)	19 名	86 名	・デモクッキング　・離乳食の与え方　・母乳体操	9 月 16 日

第 35 回	ヘイタリ (アイレベレ)	15 名	34 名	・母乳育児の重要性	10 月 3 日
第 36 回	マアラファル (アイレベレ)	10 名	29 名	・母乳育児の重要性	10 月 4 日
第 37 回	ボイキラ (イリオマール II)	13 名	37 名	・母乳育児の重要性	10 月 5 日
第 38 回	バイタウ (イリオマール II)	11 名	26 名	・母乳育児の重要性 ・デモクッキング	10 月 6 日
第 39 回	カエンタウ (イリオマール I)	15 名	38 名	・母乳育児の重要性	10 月 11 日
第 40 回	レイロール (アイレベレ)	14 名	31 名	・母乳育児の重要性	10 月 12 日
第 41 回	ワタオマール (フアト)	15 名	27 名	・母乳育児の重要性	10 月 13 日
第 42 回	リウファルノ (カエンリウ)	18 名	46 名	・母乳育児の重要性	10 月 17 日
第 43 回	ラリミ (カエンリウ)	22 名	41 名	・母乳育児の重要性 ・デモクッキング	10 月 18 日
第 44 回	ブブタウ (フアト)	8 名	23 名	・母乳育児の重要性	10 月 19 日
第 45 回	カイダブ (イリオマール II)	26 名	46 名	・母乳育児の重要性	10 月 20 日
第 46 回	ベトゥマウコロン (イリオマール II)	9 名	29 名	・母乳育児の重要性 ・デモクッキング	10 月 21 日
第 47 回	ボイキラ (イリオマール II)	13 名	38 名	・母乳体操	12 月 5 日
第 48 回	バイタウ (イリオマール I)	9 名	18 名	・母乳体操	12 月 5 日
第 49 回	カイダブ (イリオマール II)	23 名	46 名	・母乳体操	12 月 6 日
第 50 回	ベトゥマウコロン (イリオマール II)	12 名	32 名	・母乳体操	12 月 6 日
第 51 回	オソヒラ (イリオマール I)	13 名	33 名	・母乳体操	12 月 8 日
第 52 回	ヘイタリ (アイレベレ)	11 名	37 名	・母乳体操	12 月 13 日
第 53 回	マアラファル (アイレベレ)	9 名	27 名	・母乳体操	12 月 13 日
第 54 回	ワタオマール (フアト)	9 名	34 名	・母乳体操	12 月 22 日
第 56 回	ラリミ (カエンリウ)	26 名	32 名	身体測定のみ	2 月 1 日
第 57 回	ワタオマール (フアト)	8 名	26 名	身体測定のみ	2 月 2 日
第 58 回	カイダブ (イリオマール II)	22 名	38 名	身体測定のみ	2 月 3 日
第 59 回	ベトゥマウコロン (イリオマール II)	19 名	38 名	身体測定のみ	2 月 6 日
第 60 回	カエンタウ (イリオマール I)	18 名	26 名	身体測定のみ	2 月 7 日
第 61 回	オソヒラ (イリオマール I)	10 名	23 名	身体測定のみ	2 月 8 日
第 62 回	ボイキラ (イリオマール II)	11 名	17 名	身体測定のみ	2 月 9 日

第 63 回	リヒナ (イリオマール II)	14 名	34 名	身体測定のみ	2 月 10 日
第 64 回	レイロール (アイレベレ)	15 名	28 名	身体測定のみ	2 月 13 日
第 65 回	バイタウ (イリオマール I)	17 名	27 名	身体測定のみ	2 月 14 日
第 66 回	リウファルノ (カエンリウ)	18 名	36 名	身体測定のみ	2 月 16 日
第 67 回	ヘイタリ (アイレベレ)	17 名	29 名	身体測定のみ	2 月 17 日
第 68 回	アカディルロ (フアト)	16 名	24 名	身体測定のみ	2 月 20 日
第 69 回	マアラファル (アイレベレ)	21 名	40 名	身体測定のみ	2 月 21 日

3. 母親大会の実施

5歳未満の子どもの身体測定、栄養セミナー、調理セミナーと関連し、子どもの発育状態と AFMET プログラムへの参加率で母親を選出。以下の内容で母親大会を集落レベル、村レベルで実施した。

1. 栄養ゲーム…12種類の食材の書かれたカード(米・パン・さつまいも・タロイモ、肉・魚・豆・牛乳、青菜・かぼちゃ・バナナ・塩)を母親に渡し、何枚のカードを正しい栄養価(炭水化物・タンパク質・ビタミン/ミネラル)の場所におけるかチェックした。
2. 調理に使用する食材について個別に栄養価の説明ができるかどうかチェックした(例:青菜はビタミンが多く含まれていて、この食材は身体をコントロールする等)。
3. 調理の際手洗いをしっかりしているか、正しい調理法を知っているかをチェック。
   これら 3 項目を、フォーマットを使用して採点。高得点の母親が優勝。

集落レベル大会

回数	実施日	場所	参加者(母親代表)
第 1 回	11 月 22 日	フアト村	26 名(4 名)
第 2 回	11 月 23 日	イリオマール I 村	25 名(6 名)
第 3 回	11 月 24 日(午前)	イリオマール II 村	39 名(4 名)
第 4 回	11 月 24 日(午後)	アイレベレ村	41 名(5 名)
第 5 回	11 月 25 日	カエンリウ村	22 名(5 名)

村レベル大会

実施日:2017年3月30日

場所:アイレベレ村

参加者:イリオマール準郡 CHC 栄養課担当者1名、村長1名、看護師2名、PSF5名、AFMET スタッフ3名、一般参加者23名、母親10名(各村2名)

結果: 1位・アイレベレ村、2位・イリオマール I 村、3位・カエンリウ村、4位・イリオマール II 村、5位・フアト村

成果

・イリオマール準郡で SISCa プログラムが再開した。

・活動していなかった PSF たちがプログラムに参加するようになった。

・プログラムの実施に消極的だった集落長が意識を変え、協力的になり、住民の身体測定への参加率が徐々に増えてきた。

・栄養セミナーでは、教材やポスターを用い母親たちが理解しやすい工夫を施すことができた。
・母親たちの子どもの発育、栄養状態を把握するモチベーションが上がった。
・普段交流の少ない母親たちが集まり、情報交換の場を設けることができた。
・連絡がうまくいかず、住民の参加が少ない村もあったが、住民の参加を得られた村での母親大会は大いに盛り上がった。干し肉やモリンガ、家庭で採れた野菜を持参して調理している母親もいた。

課題

・モリンガを食べない習慣を持つ部族も存在するので、モリンガにかわる栄養のある食材を考える必要がある。
・住民への連絡方法を変える必要がある。

身長測定の様子

栄養セミナーの様子

調理セミナーで作ったおかゆを食べる親子

母親大会　栄養ゲームの様子

Ⅱ　健康に関する住民へのサービス及び知識・情報提供事業

1.　重度栄養失調時の子どもの家庭訪問、病院搬送

重度栄養失調時とみられる子ども2名をイリオマール準郡 CHC、ロスパロス CSI（県病院）へ搬送。プランピーナッツ（ピーナッツを主原料とした栄養治療食。ピーナッツバターのような味。一袋で500キロカロリーものエネルギーを得ることが可能）を提供した他、家庭訪問を行い、家族へ個別に相談会を実施した。2名とも回復がみられる。継続的にフォローアップを行っている。

第1回家庭訪問：　7月15日、イリオマールⅡ村カイダブ集落

第2回家庭訪問： 11月8,9日、アイレベレ村、カエンリウ村、イリオマール II 村

2. 家庭菜園セミナー

イリオマール準郡農業局スタッフと共に栄養状態を向上させる食材を確保する目的で家庭菜園セミナーを実施した。第1回セミナーでは家庭菜園の作り方、苗／種の植え方、オーガニック肥料の作り方を指導した。第2回では栄養価の高いモリンガの種を各家庭に配布し、実施トレーニングを行い、植え方を直接指導した。

第1回セミナー

実施日：8月23日

方法：教材を使用した説明、実地トレーニング

実施関係者：イリオマール準郡農業局スタッフ2名、AFMET スタッフ2名

参加者：37 名

第2回セミナー

実施日：12月12～16日

方法：教材を使用した説明、実地トレーニング

実施関係者：AFMET スタッフ2名

参加者：24名

重度栄養失調児の家庭訪問の様子

家庭菜園セミナー　実地トレーニングの様子

成果

・家庭訪問で母親への個別相談を行うことによって、母親が子どもの成長や栄養に関する理解を深めることができた。

・家庭菜園セミナーに参加した住民が、家庭菜園の準備の仕方、オーガニック肥料の作り方について理解した。

・セミナー第 2 回ではモリンガの苗を使用し、植え方を指導することができた。

課題

・モリンガに代わる栄養のある食材を探す必要がある。継続的にたんぱく質を摂取することを目標に、現在

大豆の育成を試行している。大豆の加工品であるテンペや豆腐などは食べ慣れているため、これらをイリオマールで製造・販売することができるようになれば継続的にたんぱく質の摂取が可能になると考えている。

Ⅲ　プライマリ・ヘルスケアを目的としたコミュニティ事業

1. 現地製品ココナッツオイル生産支援プログラム

2015年度に組織した女性グループは主に農業局からの支援を受け、継続的にバージンココナッツオイルの製造・販売を行っている。AFMET は継続してモニタリングを行い、フォローアップを実施している。今年度はココナッツオイルを使った傷薬（軟膏）も作成し、ロスパロスでの売り上げは好調である。

成果

・グループメンバーが継続してバージンココナッツオイルを販売し、収入となっている。
・オイルを使用した新しい製品を販売開始することができた。

課題

・継続的にバージンココナッツオイルを購入する顧客を見つける。
・掛売でオイルを購入する企業や団体が多く、売掛金の回収が難しい。
・メンバー一人ひとりが籠やバケツにオイルを入れて販売に行くため、一度に大量に運搬することが困難である。

バージンココナッツオイルの販売に行くところ

新商品　傷薬に塗る軟膏

2. FINI 活動支援

2012年度に AFMET から独立し、政府登録を完了させた FINI は、商業産業環境省からの支援を受け、現在も意欲的に活動を継続している。AFMET は、現地代表が FINI 開催の会議に参加するなど、彼らのアドバイザー的存在として協力関係を継続している。

2016年度 AFMET がFINIとともに実施した会議数：8回
2016年度 FINI が他機関に提出したプロポーザルの数：1 回
2016年度顧客数：17店舗（NGO、ホテル含む）
今年度FINIが主催・参加した会議、イベントは次のとおり。

FINI が主催・参加した会議、イベント　詳細

日付	内容	場所	参加人数
8月14、15日	労働基準局主催イベント イベントに FINI が出展。石鹸を販売した	ロスパロス	FINI2 名 AFMETスタッフ 2 名
11月28日～ 12月2日	商業産業環境省主催　文化イベント 文化イベントにFINIが出展。石鹸販売実施。	ロスパロス	FINI2名 AFMET スタッフ1名

成果

・ロスパロスでの顧客が増えた。

・今年もイベントに参加し、FINI 石けんを紹介する事ができた。

課題

・FINI の安定的活動継続のためにも、頻回に会議開催を行い支援継続の必要がある。

・石けん促進活動に消極的になる傾向が見受けられるため、FINI メンバーの意欲の向上に努めたい。

・販売場所の賃料等に年間500ドルの経費を要している。FINI 自らの土地はあるが、家を建てる必要があり、その経費が必要。

Ⅳ　地域医療行政との連携・協力事業

今年度も、保健、開発行政、他の NGO との連携のため各種会合に参加した。

・栄養ワーキンググループへの参加　3回　（保健省栄養課主催）

・他機関主催ワーキンググループ、ワークショップ、イベント、会議への参加　9回

・JICA 青年海外協力隊・医療分科会のメンバー7 名と協同し、AFMET が栄養プログラムを実施しているラウテン県イリオマール準郡で離乳食の与え方、栄養のある食事とその作り方、母乳体操を住民に指導した。

・主な連携機関　保健省（栄養課）、農業省（国産物農業広報課）、司法省（市民登録課）、商業環境産業省（住民グループ支援課）、県保健局（公衆衛生課、栄養課、母子保健課）、県農業局（国産物農業広報課）、イリオマール準郡 CHC、NGO フォーラム（FONGTIL）、県庁、JICA（国際協力機構）、NGO（ワールドビジョンジャパン、Child Fund、PARCIC、SHARE、ピースウィンズジャパン、地球のステージ、TID）

医療分科会メンバーによる説明

母乳体操の様子

成果

・他機関との連携を深め、情報交換を行うことが出来た。
・NGO 同士の情報交換が頻回に行われるようになり、連携が深まった。

課題
・今後も視野を広げて多くの機関と協働していきたい。

Ⅴ　人材の育成・研修事業

1. 他団体（NGO）との協働

AFMET の活動の充実に向け、他 NGO と積極的に協働した。

（1）　視察等の受け入れ

- JICA 青年海外協力隊　医療分科会メンバー　視察
  2016年9月14～18日
- JICA 専門家（Industrial policy advisor）森山さん、JOCV コミュニティ開発川本さん　グループ訪問
  2016年9月28、29日

（2）　AFMET と協働している主な NGO、国際機関

NGO フォーラム（FONGTIL）、Child Fund（東ティモール）、日本カトリック海外宣教者を支援する会（日本）、ピースウィンズジャパン（日本）、ワールドビジョンジャパン（日本）

・国際機関

UNICEF

・その他

ドンボスコフィロロ（東ティモール・サレジオ会）
ドンボスコケリカイ（東ティモール・サレジオ会）
イエズス会（東ティモール）
聖母訪問会メハラ修道院（日本）

（3）　政府関係機関

政府保健省（MoH）
政府農業省（MoA）
政府商業産業環境省（MCI）
政府司法省（MJ）
ラウテン県県庁（Administrasaun）
ラウテン県保健局（DHS）
ラウテン県農業局（MAP）
日本大使館
独立行政法人　国際協力機構(JICA)

2. イベント

（1）　東ティモールフェスタ2016（参加）

上智大学にて行われた東ティモールフェスタ2016 に参画した。ブース出展およびトークセッションでは

NGO シェアやウォーターエイドジャパンとともに保健セクションのクイズ、歌などを企画・実施した。

日時：2016年5月21日（土）13時～19時

会場：上智大学四谷キャンパス9号館地下カフェテリア

（2） 映画「カンタ！ティモール」上映会とミニ報告会

カトリック厚木教会にて、映画「カンタ！ティモール」上映と漆原理事が東ティモール（文化・暮らしなど）の紹介と AFMET の現在の活動について報告を行った。

日時：2016年7月10日（日）12時30分

会場：カトリック厚木教会　聖堂

参加者数：70名

5. ポスター作製・配布

横浜雙葉高等学校の「総合的学習の時間」として、高校 2 年のボランティアグループが AFMET 事務局を訪問、東ティモール大使館に取材に行くなどして東ティモールについて学び、ポスター「きみのチカラで世界が変わる」を作成。全国のカトリック小学校全校に配布したほか、東ティモールフェスタ参加者に配布した。

A2版　200部作成・配布

3．調査・調整活動

（1）カンボジア

JLMM カンボジアを訪ねステンミエンチャイ地区での活動、コンポンルアンでの活動、シェムリアップで活動の視察、調整をスタディツアー等も兼ねて行った。

2016年　7月30日～　8月6日	漆原比呂志、辻明美	上智福岡高校ツアー
2016年　8月23日～　8月30日	漆原比呂志、	カンボジア・スタディツアー
2017年　2月28日～　3月　5日	漆原比呂志、辻明美	清泉女子大カンボジア・スタディツアー
2017年　3月12日～　3月19日	辻明美	味の素事業支援

2017年　3月28日～　3月27日　　漆原比呂志　　芝の会ツアー

(2)東ティモール

派遣先との調整、活動の調整などを行った。

2016年12月4日～12月9日　　金山重之　　新規プロジェクト支援

4．研修

今年度は研修を実施しなかった。

5．派遣

今年度は新たな派遣は行わなかった

6．派遣候補者の募集と選考

2017年度派遣に向けた派遣候補者の募集を2016年8月1日より開始した。

また、昨年度に引き続き応募者増と当会の活動の周知を行うため、派遣候補者募集説明会を実施した。JLMM の活動紹介並びに派遣候補者募集に関する説明や相談を行った。

選考には、3名が受験し、うち2名が合格、2017年度派遣候補者となった。

派遣候補者募集説明会

日時:2016年7月16日(土)　19時30分

会場:長崎カトリックセンター　(長崎県長崎市上野町)

日時:2016年10月15日(土)　15時

会場:フランシスコ会聖ヨゼフ修道院 1 階ホール　(東京都港区六本木)

選考

日時:2016年11月23日(水)　9時～

会場:調布研修所

7．団体連携・協力

(1)東ティモール医療友の会(AFMET)の運営協力

特定非営利活動法人東ティモール医療友の会理事会(AFMET)に事務局職員金山重之と漆原比呂志を派遣。AFMET の運営に協力した。

AFMET 理事会　(作業部会含む)　2016年4月5日、5月16日、5月、28日、6月21日、8月17日、10月4日、11月16日、12月15日、2017年2月1日、3月8日

AFMET 総会　2016年5月28日

イベント　　2016年7月10日
カトリック厚木教会にて、報告会と映画「カンタ！ティモール」上映
2016年5月21日
東ティモールフェスタ2016（上智大学・四谷キャンパス）

（2）カトリック東京ボランティアセンター（CTVC）の運営協力

2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地支援に向け、2011年4月24日に開設されたカトリック東京ボランティアセンター(CTVC)の活動を支援した。

（3）カリタスジャパンの運営協力

カリタスジャパン委員、援助部会に事務局職員辻明美を派遣。カリタスジャパンの運営に協力した。
カリタスジャパン委員会/援助部会　　2016年　4月5日、6月20日、7月15日、8月31日
8月31日、3年2期の任期を終えた。

また、熊本地震被災地支援に協力し、カリタス福岡熊本支援センター設立支援を行った。
2016年5月2日～10日、2016年5月24日～27日

8．ゴスペル

派遣地での派遣者と現地の方々との「つながり」と同様、日本国内においても「つながり」をもち、連帯していくことを目指し、2007年度創立25周年記念式典に向け結成したゴスペルクワイアを再結成。継続して活動を行った。

指導に布施多真美さんを迎え、月2～3回程度の練習を通じ、自分達らしいゴスペルクワイアを目指した。

練習会場：六本木フランシスカン・チャペルセンター聖堂ほか
練習日：　2016年　4/7、4/21、5/12、5/21、6/2、6/16、6/30、7/14、7/21、8/4、8/18、9/1、9/18、9/15、10/6、10/20、11/10、11/1712/1、12/8
2017年　2/2、2/16、3/2、3/9、3/30

コンサート/出演

1）フラワー＆ガーデンショー2016
日時：2016年4月22日
会場：パシフィコ横浜

2）被災地追悼行事
日時：2017年3月11日
会場：宮城県亘理郡亘理町・山元町　311追悼行事

フラワーガーデンショー2016に出演

宮城県山元町の311追悼行事に出演

9．海外ボランティア制度

キリスト教信徒ではない、もしくは短い期間でも派遣を希望する方に向け、2012年度から新たな試みとして、フェローズ制度を設置し試行的に実施した。

2013年度からは名称を「海外ボランティア制度」に改め参加者を募集したが、希望者がなかったため実施しなかった。

10. 広報

（1）ミッション（ニュースレター）発行　他

ミッション№165～170の計6号を以下のとおり発行した。

№	発行日	部数	内容
№171	2016年6月10日	3,000 部	・カンボジアからの手紙（細川昭雄） ・東ティモールからの手紙（深堀夢衣） ・書き損じはがきご支援のお願い ・カンボジアからの手紙（井手司） ・amazon でお買い物して JLMM 支援！ ・カンボジア・スタディーツアー参加者募集のお知らせ
№172	2016年7月31日	3,000 部	・カンボジアからの手紙（浅野美幸） ・カンボジアからの手紙（細川昭雄） ・カンボジアからの手紙（井手司） ・カンボジア報告会開催 ・書き損じはがきご支援のお願い ・amazon でお買い物して JLMM 支援！ ・2017年度派遣候補者募集のお知らせ

№173	2016年10月15日	3,000 部	・カンボジアからの手紙（細川昭雄） ・タンザニアからの手紙（弓野綾） ・東ティモールからの手紙（深堀夢衣） ・書き損じはがきご支援のお願い ・CAMBODA DAY in 大阪開催のご報告 ・amazon でお買い物して JLMM 支援！ ・2017年度派遣候補者募集のお知らせ
№174	2016年11月25日	3,000 部	・スタディツアー参加者らの声 ・東ティモールからの手紙（深堀夢衣） ・カンボジアからの手紙（井手司） ・書き損じはがきご支援のお願い ・クリスマス・キャンペーン開催
№175	2017年1月31日	3,000 部	・東ティモールからの手紙（深堀夢衣） ・カンボジアからの手紙（井手司） ・書き損じはがきご支援のお願い ・JLMM からのお知らせ
№176	2017年3月31日	3,000 部	・カンボジアからの手紙（井手司） ・書き損じはがきをお送りください ・カンボジアの人々から学ぶ旅 ・紹介します！ともに働く仲間たち ・イースター募金ご協力のお願い ・イースター・キャンペーン開催！

（2）広告掲載等

カトリック新聞におおむね月1回、年17回広告を掲載した。

2016年

4月17日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください
5月22日	2段5cm	カンボジア・スタディツアー
6月12日	2段5cm	カンボジア・スタディツアー
6月19日	2段5cm	カンボジア・スタディツアー
7月17日	2段5cm	ともに生きる人　募集中！
8月21日	2段5cm	ともに生きる人　募集中！
8月28日	2段5cm	ともに生きる人　募集中！
9月18日	2段5cm	ともに生きる人　募集中！
9月25日	3段1／2	ともに生きる人　募集中！（世界難民の日）
10月16日	2段5cm	ともに生きる人　募集中！
11月20日	2段5cm	クリスマス募金
12月11日	2段5cm	クリスマス募金

2017年

1月22日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください

2月　5日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください
2月12日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください
2月19日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください
3月19日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください

(3)チラシ配布

1)広報チラシ作成配布

JLMM の広報、会員募集、募金を目的として郵便振替用紙付きカラー版チラシを作成し国内の教会へ配布した。

クリスマス募金　「Merry Chrithmas !」　20，000部作成(2016年12月)

クリスマス

派遣候補者募集

2)広報用リーフレット作成配布

JLMM 活動紹介リーフレット(カラー、A4版三つ折)を作製配布した。

作製部数	1，000部	2016年8月(2016年度版増刷)
	1，000部	2017年1月

3)派遣候補者募集チラシ作成配布

全国のカトリック福祉施設、幼稚園等に向け、派遣候補者募集チラシ(カラー、A4版)を作成し配布した。

キミを呼ぶ声が聞こえる？　15，000部作成(2016年8月)

(4)新聞・雑誌記事掲載

きずな(日本カトリック海外宣教者を支援する会発行)

№135(2016年6月1日)	みえない貧困・かくれた差別(細川昭雄)
	イリオマール訪問(深堀夢衣)
№136(2016年9月1日)	乾期が恋しいこの頃です(深堀夢衣)
	おかげさまで工事ができました！(井手司)
	栄養不足改善事業(深堀夢衣)

№137（2016年12月1日）	病院支援の難しさ（井手司）
	こちらは相変わらず寒いです（深堀夢衣）
№138（2017年3月1日）	JOCV のイリオマール訪問（深堀夢衣）
	クリスマスと黙想会と（井手司）

11. 報告会・説明会・講演

活動報告会を次のとおり行った。（一部再掲）
また、本年度は、小教区でのミサ後すぐの時間帯を利用し、短い時間で報告を行うミニ報告会を行った。

カンボジア報告会

2016年6月18日	福岡教区カトリック久留米教会（同日2回開催）	井手司
2016年6月19日	福岡教区カトリック久留米教会	井手司
2016年6月24日	大分教区カトリック大分教会	井手司
2016年6月26日	大分教区カトリック宮崎教会	井手司
2016年7月1日	イエスのカリタス修道女会本部	井手司
2016年7月2日	ニコラバレ・ハウス（東京・四ツ谷）	井手司
2016年7月3日	横浜教区カトリック藤沢教会	井手司
2016年7月9日～10日	CLC 霊操	井手司
2016年9月24日	横浜教区学生連盟	浅野美幸
2016年9月25日	横浜教区カトリック菊名教会	浅野美幸
2016年10月6日	味の素株式会社本社	浅野美幸
2016年10月8日	ニコラバレ・ハウス（東京・四ツ谷）	浅野美幸
2016年10月12日	NPO 法人「芝の会」にて活動報告（旗の台）	浅野美幸
2016年10月15日	フランシスコ会聖ヨゼフ修道院	浅野美幸

東ティモール報告会

2017年1月18日	味の素株式会社	深堀夢衣

ミニ報告会

2016年 9月 4日	大阪教区カトリック香里教会
2016年 9月 4日	東京教区カトリック豊四季教会
2016 年11月13日	東京教区カトリック小金井教会
2017年 1月15日	横浜教区カトリック相模原教会
2017年 1月22日	横浜教区カトリック横須賀三笠教会

派遣募集説明会（再掲）

2016年 7月16日	長崎カトリックセンター	事務局
2016年10月15日	フランシスコ会聖ヨゼフ修道院	事務局

講演その他

2016年6月20日	聖心女子学院高等科1年生宗教科出張授業	漆原比呂志
2016年6月29日	大船カトリック幼稚園	漆原比呂志
2016年7月15日	長崎・聖マリア学院小学校　宗教科出張授業	漆原比呂志
2016年7月21日	新潟県立看護大学	漆原比呂志
2017年1月28日	カトリック学校教員　養成塾	漆原比呂志

12. 主催イベント

カンボジアデー2016

カンボジア・スタディツアー参加者の同窓会を兼ねた「CAMBODIA DAY」を昨年に引き続き企画、開催した。今年度は大阪でも開催した。

大阪会場では、映画「おばあちゃんが伝えたかったこと」を上映。その後ツアー参加者と体験を分かち合った。

東京会場では、今年度ツアーに参加した専修大学の学生が中心となり、ツアーの映像を披露し、現地で行った活動や感想を発表した。またクイズ大会を開催し、参加者同士の交流を深めた。小グループにわかれてカンボジアでの体験や現在の思いについてそれぞれ分かち合った。

CAMBODIA DAY in 大阪
開催日時：2016年9月3日（土）　午後2時
会場：サクラファミリア　（大阪）
参加：25名

第8回カンボジアデー
開催日時：2016年11月26日（土）　午後2時
会場：フランシスコ会聖ヨゼフ修道院　1階ホール　（港区六本木）
参加：30名

CAMBODIA DAY in 大阪の参加者

13. バザー・イベント等への参加・企画協力

2016年9月2日	大阪教区「ハッピーフライデー」
2016年10月1日～2日	グローバルフェスタ2016
2016年10月16日	大阪教区「国際協力の日」 ブース出展
2016年10月23日	東京教区三軒茶屋教会　バザー出店
2016年12月4日	Bit主催　チャリティ・コンサート　横浜教区カトリック由比ガ浜教会

14. ファンドレイジング

味の素株式会社「食と健康」プロジェクト

担当者ミーティング　　2016年10月6日

芝の会

NPO 法人芝の会代表と事務局との間で「カンボジアの教育支援」に関する支援方針について協議した。

15. スタディツアー

諸団体・学校からの依頼に応じ、スタディツアーの企画を行った。

上智福岡高等学校　スタディツアー

2016年7月30日～8月6日　　高校2年生13名と教職員1名が参加

行程：プノンペン→コンポンルアン→シェムリアップ

清泉女子大学カンボジア スタディツアー

2017年2月28日～3月5日　　参加者6名と担当教授1名が参加

行程：ホーチミン市（ベトナム）→プノンペン→コンポンルアン→シェムリアップ

芝の会カンボジア　スタディツアー

2017年3月28日～4月3日　　参加者7名

行程：プノンペン→コンポンルアン→シェムリアップ

清泉女子大カンボジア　スタディツアー

上智福岡高校スタディツアー

16. 会議

（1）総会

開催回	開催日	会場	議　　題
定時	2016年 5月31日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	・2015年度事業報告（案）及び収支決算（案）について

（2）理事会

開催回	開催日	会場	議　　題
第1回	2016年 5月31日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	・各国・国内活動状況について ・2015年度第4回理事会議事録確認と署名 ・総会付議事項について 　2015年度事業報告（案）及び収支決算（案）について ・2016年事業計画（案）並びに収支予算（案）について
第2回	2016年 10月17日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	・各国・国内活動状況について ・JANIC の JLMM 支援に関わる東京都との交渉について ・2016年度第1回理事会議事録確認と署名 ・任期延長について（深堀夢衣） ・2017年度派遣候補者募集について ・その他（第8回カンボジアデー開催について）
第3回	2016年 1月23日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	・各国・国内活動状況について ・来年度派遣候補者研修について ・JLMM 名称検討ワーキンググループについて ・2016年度第2回理事会議事録の確認と署名

			・任期延長について(井手司)
第4回	2017年 3月6日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	・各国・国内活動状況について ・来年度研修について ・JLMM 名称検討ワーキンググループについて ・2016年度第3回理事会議事録の確認と署名 ・理事の選任について ・2017年度の予定について

(3)名称検討ワーキンググループ

当会の正式名称は、「一般社団法人　日本カトリック信徒宣教者会」であるが、この名称に含まれる「カトリック」、「宣教」という文字が時に宗教活動を行う団体、布教する団体と「誤解」される要員となっている。

そこで、現在の組織を明確に表す名称の検討を行うこととした。グループのメンバーは、JLMM 関係者、OBOG に参画していただき、継続的に検討を行った。

メンバー:森田隆、小林由加、高橋真也、浜崎眞実、渡邉怜子、漆原比呂志、辻明美、金山重之
開催日:　2017年1月25日、3月7日

17. 理事・顧問司教

役員構成は以下のとおりである。

理事の任期は2015年5月29日から2016年度最終総会まで、監事の任期は2015年5月29日から2018年度最終総会までとなる。

顧問司教は諏訪榮治郎高松教区司教である。

	役　職	氏　名	所　属　等	備考
1	代表理事	小林　誠	法務省多摩少年院(医師)	
2	理事	浜崎　眞実	カトリック相模原教会主任司祭	指導司祭
3	理事	實藤　恵利子	ケア・インターナショナル / JLMM・OG	
4	理事	松村　繁彦	カトリック大阪大司教区司祭	
5	理事	高橋　睦子	幼きイエス会	研修担当者
6	理事	瀬戸　高志	レデンプトール修道会日本準管区長	
8	理事	渡邉　怜子	日本カトリック信徒宣教者会・OG	
9	理事	漆原　比呂志	JLMM 事務局 / OB	事務局長
1	監事	徳　修	税理士/心のともしび責任役員	
2	監事	品田　典子	日本カトリック学校連合会	

18. 加盟団体等

2017年3月31日現在、当会が所属する団体等は次のとおりである。

日本カトリック司教協議会　公認団体　（2002年5月9日加盟）

特定非営利活動法人国際協力NGOセンター（JANIC）正会員　（2009年10月23日承認）

アジア司教協議会連盟福音宣教局　アジア信徒宣教団体会議　（2010年1月24日参加）

貸　借　対　照　表

一般社団法人 日本カトリック信徒宣教者会

2017年3月31日現在

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　資産の部			
１流動資産			
預金	6,467,524	5,762,145	705,379
前払費用	1,125	5,235	△ 4,110
流動資産合計	6,468,649	5,767,380	701,269
２固定資産			
什器備品	226,071	81,101	144,970
電話加入権	74,984	74,984	0
固定資産合計	301,055	156,085	144,970
資産合計	6,769,704	5,923,465	846,239
Ⅱ　負債の部			
１　流動負債			
未払金		0	0
預り金	232,665	198,253	34,412
流動負債合計	232,665	198,253	34,412
負債合計	232,665	198,253	34,412
Ⅲ　正味財産の部			
正味財産合計	6,537,039	5,725,212	811,827
負債及び正味財産合計	6,769,704	5,923,465	846,239

正味財産増減計算書

一般社団法人　　日本カトリック信徒宣教者会

2016年4月1日から2017年3月31日まで

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増減
１経常増減の部			
(1)経常収益			
受取会費	1,524,000	1,662,000	△ 138,000
受取寄付金	14,275,800	18,142,832	△ 3,867,032
受取助成金等	12,546,800	7,587,500	4,959,300
受取利息	213	817	△ 604
経常収益計	28,346,813	27,393,149	953,664
(2)経常費用			
事業費			
研修費	304,201	1,636,112	△ 1,331,911
派遣活動費	13,004,326	11,159,785	1,844,541
調査研究費	4,680,565	4,270,213	410,352
広報活動費	2,465,728	2,745,025	△ 279,297
行事費	466,412	141,324	325,088
事業費計	20,921,232	19,952,459	968,773
管理費			
人件費	4,971,870	4,828,879	142,991
事務管理費	1,601,872	1,493,221	108,651
減価償却費	40,011	35,666	4,345
管理費計	6,613,753	6,357,766	255,987
経常費用計	27,534,985	26,310,225	1,224,760
当期経常増減額	811,828	1,082,924	△ 271,096
２　経常外増減の部			
(1)経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
固定資産除却損	1	0	1
経常外費用計	1	0	1
当期経常外増減額	△ 1	0	△ 1
当期正味財産増減額	811,827	1,082,924	
正味財産期首残高	5,725,212	4,642,288	
正味財産期末残高	6,537,039	5,725,212	

計算書類に対する注記

１重要な会計方針

（１）固定資産の減価償却について
有形固定資産の減価償却は定額法を採用している。

（２）資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金及び前払費用を含めることにしている。なお、当期末残高は２に記載のとおりである。

２次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科　目	前期末残高	当期末残高
預　金	5,762,145	6,467,524
前払費用	5,235	1,125
合計	5,767,380	6,468,649
未払金	0	0
預り金	198,253	232,665
合計	198,253	232,665
次期繰越収支差額	5,569,127	6,235,984

３有形固定資産の取得価額、当期償却額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	347,502	121,431	226,071
合計	347,502	121,431	226,071

今年度、パソコン1台除却（残存価額1円）し、1台増加（取得価額184,982円）した。

財　　産　　目　　録

2017年3月31日現在

一般社団法人日本カトリック信徒宣教者会

（単位：円）

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
（流動資産）			
預　金	普通預金		
	三菱東京ＵＦＪ銀行六本木支店	運転資金として	518,209
	三菱東京ＵＦＪ銀行六本木支店	寄付金等受け入れとして	2,605,229
	郵便振替	寄付金等受け入れとして	1,342,649
	定期預金		
	三菱東京ＵＦＪ銀行六本木支店		2,001,437
前払費用		労働保険料	1,125
流動資産合計			6,468,649
（固定資産）			
什器備品	パソコン２台	事務局にて使用	226,071
電話加入権	事務局FAX 03-5414-0991		74,984
固定資産合計			301,055
資産合計			6,769,704
（流動負債）			
預り金	社会保険料		174,730
	CTVC		13,535
	カリタスジャパン		44,400
流動負債合計			232,665
負債合計			232,665
正味財産			6,537,039

収支計算書

一般社団法人 日本カトリック信徒宣教者会

自2016年4月1日　至2017年3月31日

収入の部　　(単位:円)

科目名				16年度予算A	16年度決算B	増減額B-A	増減率B/A	備考
収入の部			受取会費	1,700,000	1,524,000	△ 176,000	89.6%	
			受取寄付金	17,000,000	14,275,800	△ 2,724,200	84.0%	
			受取助成金等	12,547,000	12,546,800	△ 200	100.0%	芝の会,味の素
			受取受取利息	1,000	213	△ 787	21.3%	
			雑収入	10,000	0	△ 10,000	0.0%	
	当年度収入合計(A)			31,258,000	28,346,813	△ 2,911,187	90.7%	
収入合計　(B)				31,258,000	28,346,813	△ 2,911,187	90.7%	

支出の部

科目名				16年度予算A	16年度決算B	増減額B-A	増減率B/A	備考
支出の部	運営費	人件費	1. 人件費　(D)	5,169,000	4,971,870	△ 197,130	96.2%	
			給料手当	4,150,000	4,025,000	△ 125,000	97.0%	1名分
			通勤手当	302,000	301,280	△ 720	99.8%	
			退職金	0	0	0		
			法定福利費	710,000	634,949	△ 75,051	89.4%	
			福利厚生費	7,000	10,641	3,641	152.0%	健康診断
		事務管理費	2. 事務運営費 (E)	1,682,000	1,601,872	△ 80,128	95.2%	
			会議会場費	5,000	0	△ 5,000	0.0%	
			会議食事代	5,000	10,165	5,165	203.3%	
			会議旅費交通費	70,000	0	△ 70,000	0.0%	
			電話料	200,000	157,483	△ 42,517	78.7%	
			郵便切手送料	80,000	176,061	96,061	220.1%	
			印刷コピー代	50,000	19,297	△ 30,703	38.6%	
			旅費交通費	30,000	31,925	1,925	106.4%	
			消耗品費	50,000	11,587	△ 38,413	23.2%	
			リース料	852,000	851,808	△ 192	100.0%	
			支払手数料	120,000	113,528	△ 6,472	94.6%	振替手数料他
			諸会費	40,000	65,000	25,000	162.5%	司教協議会公認団体,JANIC
			水道光熱費	80,000	94,418	14,418	118.0%	
			租税公課	70,000	70,600	600	100.9%	法人都民税他
			慶弔費	20,000	0	△ 20,000	0.0%	
			雑費	10,000	0	△ 10,000	0.0%	
	運営費支出合計　(F)=(D)+(E)			6,851,000	6,573,742	△ 277,258	96.0%	
	活動費		研修費	356,000	304,201	△ 51,799	85.4%	
			派遣活動費	15,832,000	13,004,326	△ 2,827,674	82.1%	職員1名分含む
			調査研究費	5,009,000	4,680,565	△ 328,435	93.4%	職員1名分含む
			広報活動費	2,840,000	2,465,728	△ 374,272	86.8%	
			行事費	356,000	466,412	110,412	131.0%	報告会等
	活動費支出合計　(G)			24,393,000	20,921,232	△ 3,471,768	85.8%	
経常費用計 (H)=(F)+(G)				31,244,000	27,494,974	△ 3,749,026	88.0%	
			固定資産取得		184,982			パソコン購入
			固定資産除却損	0		0		
	財務支出合計 (I)			0	184,982	184,982		
	当年度支出合計 (J)=(H)+(I)			31,244,000	27,679,956	△ 3,564,044	88.6%	
	当期収支差額 (K)=(A)-(J)			14,000	666,857	652,857	4763.3%	
	前年度繰越金 (L)			5,569,000	5,569,127	127	1	
	次期繰越収支差額 (M)=(K)+(L)			5,583,000	6,235,984	652,857	1	

監査意見書

一般社団法人日本カトリック信徒宣教者会定款第２７条の規定に基づき、２０１６年度における理事の職務執行状況、事業の執行状況並びに財務の状況について、当該年度の通常理事会議事録、活動報告書及び収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表並びに財産目録、更にはこの内容を証する関係諸帳簿、証拠書類等を精査したところ、いずれも適正に処理されていると認められた。

２０１７年　５月２５日

一般社団法人日本カトリック信徒宣教者会

監　事　（事業）　品田典子

２０１６年　５月３０日

一般社団法人日本カトリック信徒宣教者会

監　事　（財務）　德　修